

第2回裾野市総合計画等評価委員会 質疑・意見に対する回答・対応表

No	該当箇所	質疑または意見	発言委員	回答・対応
1	施策の柱 1-5	利用制限されていた市民文化センター大ホールでの代替措置として、具体的に何を行ったか教えてほしい。	市川 加代子	大ホールでやっていた文化活動の発表会やイベント等を隣接する生涯学習センターのホールで実施した。小・中学校の音楽祭などは生涯学習センターのホールまたは市民文化センター多目的ホールで実施した。 担当課（生涯学習課）の自己評価では、文化財、文化芸術に触れるという点から、文化財の保護活用分野で富士山文化の調査研究や文化財の新規指定、文化財情報の発信強化など文化財への興味関心を喚起を図ったとされている。
2	施策の柱 2-2	「30%」ということが独り歩きしてしまっているような気がする。その分母・分子も見えないため、この一言で評価して良いか不安である。	吉田 俊朗	文言については、ご指摘のとおり修正する。 2-2「相談窓口によるサポートを受けた事業者の売上増減割合の平均」の30%増については、件数を確認する。
3	施策の柱 2-1 2-2	吉田委員の発言に関連し、12ページでは「～市民所得増加につなげることができていない」とあるが、13ページでは「～市民所得増加につなげることができている」となっていて背反する形になっている。11ページの1人当たりの市民所得額が増えていることを示唆しているのであれば、13ページは「市民所得額の増加につながることを期待する」ぐらいの文言にした方が良くと思う。	飯塚 尚司	【補足】 施策の柱2-2は「相談窓口によるサポートを受けた事業者の売上増減割合は目標を達成しており、市民所得額の増加につながることを期待する。」に修正した。また、渡邊委員の評価時のご意見から「創業件数が少ないため、今後は裾野市を選んでもらう仕掛けが必要である。」を加えた。 2023年に2件の事業者が相談窓口によるサポートを受け、その内1件の売り上げが60%増加している。
4	大綱3 施策の柱 3-2	18ページに「市民の意識は低い」という記載があり、21ページの3-2には「防災意識がまだ低い」という記載があるが、何かの数値に絡めないと言葉が独り歩きしてしまうので、備蓄率から判断した形にするか、「伸び悩む」など「上がっていない」という表現にした方が良い。	飯塚 尚司	ご意見を踏まえて書き方を再検討する。 【補足】 大綱3の1文目は「環境・防災に関しては一定の成果をあげているものの、家庭の防災備蓄率が低いことから防災意識が向上していないと考えられる。」に修正した。 施策の柱3-2の1文目は「地域の防災対策は評価できるものの、家庭の防災備蓄率が低いことから防災意識が向上していないと考えられる。」に修正した。
5	施策の柱 3-1	市民1人1日当たりのごみ排出量は、少なくなって素晴らしいが、要因としては民間の紙の改修ステーションの普及があげられる。民間ステーションに出されたものは、市の管轄から抜ける。民間がやっているのは良いことだが、認識に入れておいてほしい。	市川 加代子	ご意見を踏まえて書き方を再検討する。 【補足】 「市民1人1日当たりのごみの排出量」の「進捗について」に「民間設置の資源ステーションも数値に影響していると考えられる。」と追記した。

No	該当箇所	質疑または意見	発言委員	回答・対応
6	施策の柱 3-4	国民健康保険特定健康診査受診率の記載があるが、1カ所で全ての健診ができる病院は、裾野市には1箇所しかなく、予約を取るのが大変。そういった環境要因も受診率に影響していると思うので、受診の働きかけはあまり効果が上がらないと思うので、例えば病院の誘致など環境を変えていく取り組みについても、要因分析した上で触れる必要があると考える。	山本 睦	医療体制の脆弱性については認識している。須山地区に医療機関がないという環境もあるので、個人への働きかけだけでなく、医療体制のあり方について検討している段階である。環境要因の改善についても、今後の計画への記載を検討していきたいと考えている。（健康福祉部長）
7	施策の柱 4-3	1段落目の人口1人当たりの都市公園についての記載から、2段落目の初めの数値上の効果の内容までがみどりの基本計画の内容である。2段落目に続いて屋外広告物の景観の話があり、その後またみどりの基本計画に関係する公園の内容が入ってくる。順番を整理した方がよい。	藤井 敬宏	ご意見を踏まえて順序を見直す。 【補足】 「人口1人当たりの都市公園の面積は、静岡県内の23市中22位と低く、目標自体が県内平均値より約3㎡も少ない状況にある。数値上は一定の効果が出ているが、実質効果が薄いと思う。公園がどの程度利用されているかなどの現状の把握が必要である。また、屋外広告物が良好な景観に則しているか数値だけでなく内容の確認が必要である。」に修正した。
8	大綱5	藤井委員の「地域資源のポテンシャルの高さ」という言葉に魅了された。施策の柱5-1以降につながっているが、「地域資源のポテンシャルを活かしたより効果的な取組を検討する必要がある」に縮約されていると考える。藤井委員が「裾野らしいライフスタイル」に触れられているが、それに続けて言葉を入れるとしたら、「“裾野らしさ”の再定義を期待する」など市民からの提言で入れても良いと考える。	飯塚 尚司	ご意見を踏まえて書き方を再検討する。 【補足】 「さらなる満足度向上のため、疑問点について調査を行い、地域資源のポテンシャルを生かしたより効果的な取組を検討する必要がある。“裾野らしさ”の再定義を期待する。」に修正した。
9	大綱5	〇〇市らしいという表現は他市町の総合計画でもよく使われるが、何かわからない。「裾野らしい“ライフスタイル”」という表現をしているが、アフターコロナの側面の含め、働き方が変わっていく中で、定住する方、移住してくる方、転出する方それぞれの住まい方や憩い方など暮らしそのものの質が変わってきている。そんな中、裾野市のポテンシャルを考えたときに、映画撮影などに今回初めて気が付いた。北部にある資源を含め、魅力と総合計画を紐づけると、個人個人がこう暮らしを楽しんでいるなどそういったものを活用した裾野らしいライフスタイルを自治体として演出、PRするものがあると期待している。林業の分野では、担い手がおらず苦しんでいるが、観光資源とつなげたり、産業の中につなげたり、暮らすこと、スポーツすることによって、その魅力が広がるようなことをイメージすると面白いまちになると考える。 裾野らしいライフスタイルとは、具体的にどんなイメージか、情報発信につなげられるかといった具体性を持ったところまで追いかけると地域資源というキーワードにつながると考える。提案されたように「裾野らしいもの」などを加えられると地域の思いのようなものが入ってくると思うため、考慮してほしい。	藤井 敬宏	

No	該当箇所	質疑または意見	発言委員	回答・対応
10	その他	評価の基準自体を変えた方が良いという意見について、一覧にして「やります」という話はしているが、主観的な満足度で測るのは限界があり、利用回数などの代替する明確な数値に移行するなど考えが分からないため、全項目に対し再検討が必要な箇所とそのままで良い箇所、代替できるものがある箇所を評価に入れ込んでほしい。	山本 睦	市でも課題であると捉えている。分析して対応していきたいと考えており、計画の策定段階でもご意見いただきたい。 【補足】 計画策定時に改めて基本目標や成果指標の設定を行うため、その際に現在の指標が妥当なのか等検討させていただく。
11	その他	総合計画の進捗管理では、アウトプットとアウトカムが出てくる。外部委員は設定された目標がクリアできているか、5年経ったところで総合評価という視点で正しく運用できるか等その項目自体の課題の有無を判断する必要がある。まず今回のステップでは、当初設定されたものがどういう状況で動いていったか評価し、その後評価できなかったものや変えるべき点を段階的に分けてやらなければならないと考える。	藤井 敬宏	今回委員の皆様をお願いしたいのは、前期基本計画で市が行った事業に関する評価である。 指標の設定に関するご意見を多数いただいたが、次期計画策定時に改めて設定していく予定である。3月以降に審議会を行うため、その中で協議をお願いしたい。
12	その他	藤井先生が言われたように、評価は現時点でしようということです。その後の指標の見直しはどのタイミングなのか。指標に関する意見は一覧に書かれているので、事務局が読み解いてこれ以降の話し合いに移れば評価そのものに移ると思う。	飯塚 尚司	
13	その他	前期基本計画を策定する際に「田園未来都市すその」というキャッチフレーズを作ったが、立ち消えになったのか。維持するのか。	山本 睦	「田園未来都市すその」という言葉は引き続き使用する。10年間で計画期間の基本構想にも謳っているため、この将来像をめざした後期基本計画策定をする。